

江戸時代から続くモノづくりの町

平坂の鋳物業

西尾市立平坂小学校長 岡田 秀則



太田庄兵衛の銘が残る半鐘 (西尾資料館蔵)

西尾市立平坂小学校の校庭には、「福かえる」の置物があります。これは、平成6年3月に当時の6年生が卒業記念品として地元の鋳物組合の協力を得て制作したものです。彼らは、5年生の時に社会科の授業で「平坂の鋳物」を扱い、その学習の成果として校内に期間限定の「鋳物博物館」を開館しました。鋳物組合を巻き込んだ取り組みであったため、その縁で卒業制作

でも協力いただけることになりました。30年以上経った今も訪れる方の目を引いています。

鋳物工場が点在する平坂の町

本校の校歌3番に「ふきの炎の天をもこがす」という歌詞があります。これは校歌が作詞された当時、学校から見えた鋳物工場のキューポラから出る火の粉の光景を表しているとされています。

平坂は鋳物の町です。工場の数こそ減りましたが、今でも校区には鋳造所が点在しています。



鋳物製の「福かえる」

その歴史は江戸時代にさかのぼります。平坂鋳物の起源には諸説ありますが、太田庄兵衛、甚兵衛の両名が近江国栗田郡辻村(滋賀県)から移転したことを証明する「宗旨請状」と「手形」の写しが発見されたことから16

71(寛文11)年を起源とすることが定説となっています。両名の出身地である近江国辻村は、鋳造業がたいへん盛んな地で、この村出身の鋳物師が全国で活躍していました。近辺では碧南の国松家、岡崎の木村家などがあります。また、平坂地区で特に鋳物業が発展した理由として、次のことが挙げられます。

- ① 平坂港があり、原材料や製品の輸送に都合が良かったこと
- ② 矢作川が運んだ砂が鋳物砂として利用できたこと
- ③ 三河三都(豊橋・岡崎・西尾)の一つとして、釜や鍋の需要が高かったこと

このような経緯で、今から350年ほど前に平坂の地で鋳物づくりが始まりました。

梵鐘造りから始まった鋳物業

太田庄兵衛・甚兵衛は、平坂三間屋の一人であった市川彦三郎の援助をうけ、鋳物業を営むこととなりました。太田家は鍋や釜などの日用品の他に、寺院の梵鐘の製作を請け負っていたようです。

太田家が製作した梵鐘の中で最も古いものは、1672(寛文12)年10月15日と記された上矢田町桂岩寺のものですが、残念ながら現存していません。現在、西尾市資料館に所蔵されている田貫徳受院の半鐘には、元禄12(1699)年の銘が残っており、作者太田庄兵衛の名も刻まれています。

太田家の梵鐘製作が一番盛んだったのは、1700年代でした。西浅井町源空院の梵鐘を皮切りに、この100年間で27もの梵鐘を手がけています。

梵鐘から日用品へ

1800年代に入り、生産の中心が梵鐘から鍋や釜などの日用品に移行していくこととなります。近隣の寺院からの注文が少なくなったこと、庶民の生活上により鍋や釜の需要が増えたことがその理由として考えられます。

1824(文政7)年、太田家はこれまでより設備を拡大し、日用品の注文増加に対応することにしました。太田家と同じ近江国出身であり、須田町で開業していた「鍋屋」を営む辻利八がそうした日用品の販売にあたりました。

明治期、太田家は鋳物業で得た収益を土地購入へ投資することで大地主となりました。「三河国幡豆郡地価鏡」によると、10代太田倭三郎の時には、地価額で郡内第3位に記録されています。太田家の菩提寺は、一色町味浜にある普元寺ですが、代々の墓石は住まいに近い楠村町の阿弥陀院にあります。



鋳物製の太田家の墓 (西尾市楠村町・阿弥陀院)

その傍らに倭三郎の墓も現存しており、鋳物製で高さ18mの円筒形の一段と目立つものになっています。

鋳物工業協同組合設立

12代太田庄三の時、200年以上にわたって栄えた太田家が衰退していくことになりました。その理由としては、庄三が鋳物業の他に、石炭・塩田・紡績などの事業に手を出し、失敗したことが挙げられます。

1894(明治27)年、太田金屋が廃業すると、太田金屋の番頭を務めたことのある伊藤小三郎が買収に乗り出しました。小三郎は金物屋として販路を広げるとともに製造にも着手しました。平坂に伊藤鋳造所を設立すると、意欲的に規模の拡張を図ることになります。

1921(大正10)年には、小三郎を初代理事長として平坂鋳物同盟会が結成されます。その後、名称変更を幾度か経て、現在の西尾市鋳物工業協同



市内に多く残る丸型ポスト

組合となりました。西尾市には丸形ポストが多く残されています。県内最多の14基が現存し、今も現役で活躍しています。伝統的な赤色ポストのほか、最近は抹茶色やピンク色で彩られるようにもなりました。こうした丸形ポストの多くは、西尾市内の鋳物工場で製造されたようです。伊藤小三郎が設立した伊藤鋳造所は、現在平坂鋳工と名称を変更していますが、ポストを製造していたという記録が残っています。

地元で息づく平坂の鋳物業

西尾市鋳物工業協同組合は設立から100年を超えました。その記念事業の一つとして本校と共同してコラボ企画が始まりました。実際に鋳型・砂型を用いて行う鋳造体験です。令和5年度は平坂小学校5年生が自分のアルファベットを形どった鋳物を製作しました。児童は「砂型を使うことを初め



鋳物組合と地元企業の協力で行われた鋳造体験

て知った」「鋳物作りが盛んだということを自慢していきたい」等の感想をもち、有意義な活動となりました。このようにして江戸時代から続くモノづくりの町・平坂の鋳物業は今も地元でしっかりと息づいています。

写真提供

西尾資料館

西尾市教育委員会事務局文化財課

参考文献

『西尾の人物誌』

『西尾を築いた100人』

『西尾の鋳物 鋳物組合百周年記念誌』